

渡島地協 ユニオンスクール第5期第3回学習会を開催

ユニオンスクール渡島（以下、US渡島）・第5期第3回学習会（閉校式）が、8月23日（土）13:30より函館市内パークホテルにおいて開催された。

2月からスタートした基礎編も5月の学習会を経て順調に進められてきた第3回学習会（閉校式）は、冒頭、連合渡島地協・荒木会長（US長）が挨拶に立ち、3回の学習会を通じて学び合ってきた基礎知識を、今後はそれぞれの組合活動を通じた実践の中で十分に生かしてほしい、特に今回のテーマは団体交渉（模擬団体交渉）であり、労使間の営みの重要性和、常に後ろには組合員と家族がいることを意識した取り組みの展開をお願いしたい。と受講生に訴えられた。



団体交渉・経験豊富な役員に組合は
タジタジに

連合北海道・組織対策局・斉藤局長の指導で早速スタートした第3回学習会は、「団体交渉の重要性和労働組合の役割」のテーマに基づく「模擬団体交渉」である。

交渉経験豊富な連合役員（四役・執行委員）が会社側役員を演じ、受講生14名（本来は18名）が労働組合（2班）を担う設定は、US渡島の1回目からの定着パターンでもある。

会社側が打合せを行っている間、組合側は職場集会（形として）、要求書のとりまとめ、団体交渉申し入れ等について整理をし、会社へ申し入れ。



組合役員も積極的に発言はあるものの・・

ここ数年の経営の悪化と会社存続に向けた苦肉の策であると主張する会社側とでは隔たりが大きく、思うように進まない状況に、斉藤講師からもたびたびアドバイスが入る状況に。

中断したり、組合側を入れ替えたり、上部機関（連合相談員）を交えたりと工夫を凝らして進めようとしても、会社側役員を演じる連合役員の豊富な経験が徐々に生き始め、アドリブも含めて巧みな話術に、主要な要求課題がぼやけてしまったり、会社のペースに載せられて論議が進められたりと、力の差は歴然としていた。

前回まで、窓口で時間を費やしすぎた経験を生かし、今回は短時間で応じることとなったが、それでも意地悪い人事部長（連合・山田組織部長）にあしらわれて入り口から悪戦苦闘。

何んとか、話し合い・団体交渉迄こぎつけたがここからが本番。

労働組合が求める①25%カットの白紙撤回 ②労組への謝罪等を巡る攻防は、こ

それでも食らいつく労働組合を演じる受講生に対して、わざと馴れ馴れしくふるまったり、問題発言や暴言を行ったりと付け入る隙を作っているにも関わらず、十分に攻めることが出来なかったのは非常に残念でもあった。

最後は、斉藤講師の提案で妥結に向けた論議に向かったものの、それでも会社側役員の巧妙な手練手管になすすべもなく、今年も時間切れてなってしまった。

今回の団体交渉は、受講した諸先輩からの情報が行き届いていたのかは定かではないが、非常に活発な論議が行われ、自らの背中には労働組合員とその家族がいることが前提の真剣な論議が交わされ、時には、会社側役員が本気で怒ったり、向かって行ったりと、従前には見られない光景も映し出されたことは評価し合えるものでもあった。



終了おめでとう。今後の活躍に期待を

修了後の懇親・交流会で出された受講生の意見・感想は、①初めて団体交渉の場に臨んだが、勉強にはなった反面、難しさも感じた。②日常において組合3役がこのように場に臨んで入る事が理解され、今後は積極的に組合に協力をしていきたい。③会社側役員の真剣に姿勢に怖ささえ感じた。④もう少し角度を変えて主張していればと後悔をしている。機会があれば再度チャレンジをしてみたい。⑤非常に勉強になった。労働組合の重要性・必要性を再度認めた。等々、受講した感想も含めて述べられた。

悪徳管理者を演じた連合役員は、演じた悪いイメージを払拭し、日常的につながりを強化しようと躍起になって親睦を深めあっていたのも印象的だった。



第5期ユニオンスクール渡島の記念写真
模擬団交と今の顔では丸で違ってきます

■ 渡島地域協議会の教育活動・ユニオンスクールは今回で5期を終了し、84名の修了生を送り出した。

■ その半数以上は、現職組合役員を担ったり、時期役員候補であったり、各種取り組みにおいて積極的に労働組合に協力する状況下にある

■ 将来的には、US渡島野修了生の多くが、産別・単組・地区連合会の中心的役割を担い、運動の質的強化を図るとともに、地域横軸の連携をより一層強化した

運動の推進が図られていくことを期待している。

■ 明年は、基礎研修修了生を対象に更にグレードをアップさせた「フォローアップ研修」を開催する予定であり、地道な活動の定着・発展が極めて重要であることをあらためて認識し、その具体的取り組みを進めていかなければならないと考える。